

# 東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

## カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax.022-222-7378  
1) 義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座：00170-5-95979  
名義：カリタスジャパン

東日本大震災から丸 8 年となる 3.11、今年も被災地のみならず、日本各地そして世界各地で、追悼と復興の祈りがささげられました。

まずは、仙台教区のミサとして、カテドラルである元寺小路教会でささげられた「犠牲者追悼 復興祈願ミサ」の様子をご紹介します。そして今回、東日本大震災直後から、仙台教区の復興支援のために仙台に住み、全力でサポートしてくださり、現在は、ローマの神言会本部を拠点に、世界中を活動場所として活躍されている成井大介神父（神言会）から、バチカンで行われた追悼ミサについて、記事と写真が届きました。さらに、被災者の方々が集まり、自分たちの「今日の思い」を聖母マリアのみ手に委ね、静かな追悼の 1 日を過ごした石巻ベースの様子をご紹介します。

### 3.11 東日本大震災 犠牲者追悼・復興祈願ミサ

仙台教区サポートセンター 長谷川昌子

8 年目の 3.11 は、朝から激しい雨が降っていました。その日の「河北新報」夕刊のトップ見出しは、亡くなられた被災者の墓前で手を合わせて祈っている方々の姿とともに、「愛するあなたへ涙雨」というものでしたが、この日、多くの人は同じ感じを味わわれたのではなかったでしょうか。

去年は、3.11 が日曜日で、多くの方が参加してくださったのですが、今年は月曜日であり、その上にこの雨。何人の方が、仙台教区主催の「東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願ミサ～ともに 復興をめざして～」に参加してくださるのかと、少しはらはらしながら、元寺小路教会の聖堂準備をしていました。

しかし、午後 12 時過ぎからぼつぼつと参加者が来られ、ミサの始まる 2 時半には、120 部準備した式次第が足りなくなり、コピーに何度も走るようになりました。最終的には、参加者は約 160 人になりました。

主司式は、平賀徹夫仙台司教、大阪教区の神田裕神父、松村繁彦神父、仙台教区で宣教司牧に当たっている森田直樹神父、イ・ソク神父、川崎忠紀神父、佐々木博神父、ファミニアラガオ・フェルディナール神父、小野寺洋一神父が共にミサを捧げました。



司祭たちが入堂した後、パイプオルガンが静かに流れ、2 時 46 分の弔鐘とともに、全員立って黙祷を献げました。

それからミサが始まりましたが、平賀司教はまず「東日本大震災から 8 年を迎えるにあたり、思いを同じくするすべての人と心を合わせて、犠牲となった方々をしのび、慰めと希望、そして復興に向けての知恵と勇気を求めて、この感謝の祭儀をささげましょう」と参加者を祈りに誘いました。

福音朗読の後、神田裕神父は、ご自分の阪神・淡路大震災での体験を踏まえ、次のように参列者を励ましてくださいました。

24 年前の 1995 年 1 月 17 日、阪神・淡路大震災の時、私は神戸市長田区の鷹取教会にいました。この町の 3 軒の家から火が出て、次々と家が燃え始め、教会まで火が来て全焼しました。私は、ただただ、なすすべもなく、呆然と火事を見ているだけでした。その後、町を建て直すために「まちづくり協議会」が立ち上がりました。私は副会長にさせられたのですが、教会の隣に住んでいた人のことも知らなかつ

たのです。火事の時、皆さんは、「○○さ～ん！」と助けようと必死で叫んでいたんですが、私は叫ぶこともできませんでした。それで、私は身近な人を知ってこうと努めるようになりました。

震災前は、3 つの壁がありました。「宗教」「国籍」「文化」の壁です。鷹取教会には、ベトナム人の信者さんがたくさんおられました。神戸の町には、その他、フィリピンとか、いろいろな国籍の人がおられました。その人々が震災を機に交流するようになりました。お互いに助け合うようになりました。震災によって、その壁がすっかり取り払われてしまいました。しかし、復興していくにつれ、その壁はまた徐々に建てられるようになっていったのは残念だと思います。しかし、交流することによって、国によってこんなに文化が違うんだ、ということが分かりました。国の違いだけではなく、この日本のいろいろな地域でも、文化や伝統が違います。そのいろいろな文化が交流することは恵みです。文化が交流するところには、新しい創造のわがが始まります。

東日本大震災の後、熊本でも大きな地震がありました。熊本、広島などでも、多くのボランティアさんが各地から集まり、文化交流が始まっています。被災地は、今、過去を振り返り、元気を取り戻そうとしています。

こうして、日本国中は、多文化エリアになろうとしています。多文化は新しい創造の始まりです。私には、この文化交流によって、新しい創造が始まり、教会も新しい教会になるだろうという予感があります。そして、仙台は、その発信地になるでしょう。

昨日は四旬節第 1 主日でした。福音では、イエス・キリストが荒野で誘惑を受けられたことが語られました。イエスが誘惑にあわれたのです。この聖書の中で「誘惑」ということばは「試練」と同じ単語が使われています。私たちは多くの誘惑にあうことがあるでしょう。最大の誘惑は、「絶望」です。それを試練に変えていきましょう。私たちの復興の 8 年の歩みは、交流によって始まっています。新しい創造の歩みも始まっていることでしょう。阪神・淡路の歩みのなかで、地元の宗教者の交流が始まり、その中から生まれた「宣言文」をご紹介します、と最後にその文章を読み上げられて説教は終わりました。





共同祈願と奉納は、ともに「チーム・カリタス仙塩」の方々が担ってくださり、亡くなられた人々や、被災者の方々、原発事故によって、ふるさとを離れた人、風評被害で苦しむ人、復興を目指して、被災者のためにボランティア活動をしている人々のため、心を込め祈り、奉納してくださいました。



共同祈願と奉納をしてくださったチームカリタス仙塩の皆さん

丸 8 年を迎えましたが、3.11 の前後だけは、ニュースで取りあげられるものの、他の日には、忘れ去られてしまっています。その中であっても、被災者の方はもちろん、神奈川県鎌倉市から、福島市から駆けつけて来てくださった方々、参加者の皆さんが、「今年もお目にかかることができました、ぜひ、来年もお会いしましょう」と声を掛けたり、「このミサに参加すると、力をいただけますね」という方もおられました。朝からの雨は、参加者の熱烈な祈りで、ミサが終わる頃にはすっかり上がって皆さんを喜ばせました。



毎年、仙台教区主催の 3.11 ミサに参加して下さっている神田神父様

神田神父の読み上げた「神戸メッセージ」は、ミサに参加した多くの人から共感されました。その一部を抜粋でお伝えいたします。

### いのり追悼と新生—宗教者による神戸メッセージ

突如襲った阪神・淡路大震災は、私たちに未曾有の被害と絶望をもたらしました。犠牲になられた方々への無念は尽きることがありません。それと同時に、残された私たちの日常も苦渋に満ちたものでした。生きることの苦しさを嫌というほど味わいました。しかし私たちは、それにもめげず微かな希望に支えられて、これまで生きてきました。その希望の源になったものは何か。それは自分の隣にいる人々との出会いそのものでした。

私たちは不思議な体験をしました。成す術が分からない、そんなさ中にもお互い助け合うことができました。優しく声をかけることもできました。そこには普段、人と人を隔てている壁のようなものは無くなっていました。隣との壁、国籍の壁、そして宗教の壁です。お互いが助け合うという自然にできた優しさが、そんな壁をも打ち壊したのです。そこには生きるために国籍や宗教の別は必要ありませんでした。生きていることそのものがすべてでした。

私たちすべての願いは地震から早く立ち直り、まちが復興することです。しかし今、復興という言葉にだんだんと取り残されてゆく人々があります。私たちは決してそんな仲間たちのことを忘れてはなりません。最後の一人が震災から立ち直るまで地震は終わらないからです。

私たちは宗教者として、今一度この 3 年を振り返り、心を合わせたいと思います。自分が責任を持つ教団の利益や信徒への奉仕にのみ留まっていなかったか、そして世に開かれた宗教の働きを、自らの生き方として担い得たかを問い直すことから始めなければなりません。そこからひとりひとりが壁を取り払い、優しく声をかけ合い、分かち合

える「ひとづくりまちづくり」を目指してその働き（教化や布教、宣教）を担っていかなければならないと、こころざします。さらにまちが復興し、単に普段に戻ることを願うのではなく、地震の中で体験した不思議な出来事に希望をおき、新しい世を創ってゆくことを願いそして祈ります。それが宗教者としての共通の使命と考え、そのことが犠牲になられた方々への追悼となり、残された人々の新生となると固く信じるからです。

地震に負けないで、勇気を持って新しい世を一緒につくってゆきませんか。

1998 年 1 月 17 日

震災を生きる宗教者有志

## バチカンでも追悼ミサが！

神言修道会 成井大介神父（在ローマ）

3 月 11 日の午後 5 時、バチカンの聖ペトロ大聖堂司教座祭壇で、聖ペトロ大聖堂主席司祭であり、バチカン市国教皇代理の、アンジェロ・コマストリ枢機卿司式による東日本大震災犠牲者の追悼ミサが行われました。大勢の巡礼者、小教区の信徒、そして、ローマ・カトリック日本人会を含めて 50 名ほどのローマ在住の日本人や日本で活動した宣教師、修道者、司祭あわせて 300 名弱の人々がこのミサに参加し、祈りを共にしました。また、ローマ・カトリック日本人会からは大船渡出身の菅原裕二神父（イエズス会）、震災時に仙台教区で活躍されていたホセ・アルフレド・ゴンザレス神父（グアダルペ会）を含む 7 名の司祭が共同司式しました。



ミサの冒頭、コマストリ枢機卿は共に東日本大震災の被災者のために祈りをささげるよう呼びかけました。

また、説教では永井隆博士を紹介し、次のように話されました。

「永井博士は 1945 年 8 月 9 日、長崎に原爆が投下されたとき、まずは周りの人々のために動き、そのあとで自分の家のあった場所に帰ったが、残っていたのはただ妻の握っていた口ザリオの鎖だけだった。これは人を打ちのめして当然の苦しみだが、永井博士はその後も原爆で苦しむ人々のために働きつづけ、最期はピオ 12 世から送られた口ザリオを祈りつつ、43 歳の若さで亡くなった。その葬儀の日は長崎の町じゅうが黙祷して彼を見送った。日本人は苦しみの気高さを知っている。永井博士はそのすばらしい模範を示した。今、地震と津波によって大きな苦しみを味わっている人々のために祈りましょう」と。

枢機卿の語られた苦しみの持つ意味、気高さ、尊厳といった表現には考えさせられるものがありました。

共同祈願はイタリア語と日本語で行われ、世界で起こるすべての災害の被災者、特に貧しい人々、また東日本大震災の被災者のために祈りが捧げられ、そして、私たち一人一人が何ができるのかを考え、行動に移す勇気を神に願いました。



ージの記入をお願いし、掲示板に貼っていただき、午後 2 時ごろからスタッフが準備した白玉ぜんざいをみんなでいただき、午後 2 時 40 分ごろに小テーブル前に集まっていただきました。

まず私が、共同祈願のようにして震災で亡くなられた方々、今もなお悲しみのうちにいる方、放射能で汚染された地域の方、今もなお避難生活を余儀なくされている方々のために祈りました。

午後 2 時 46 分。全員、海の方に向き、1 分間の黙祷をささげました。涙を流している方もありました。このベースを利用してくださる方々は、日頃は明るく冗談を言い合ったりなさっているのですが、皆さん東日本大震災の被災者なのです。みんなで共に、心と思いを一つにして祈っていると感じました。



書いていただいたメッセージを通して、8 年前の痛みを感じつつ、前向きに生きようとしていらっしゃる被災者の方々の思いに触れ、心から声援を送りたいと思いました。

掲示板に貼られたメッセージを一部、ご紹介いたします。

- 震災から 8 年、あの時の気持ちを表しているような激しい雨、いつまでも忘れないでと語っているようです。
- 震災 8 年目、あの日を忘れず、前向きに生きています。皆さまのおかげです。感謝です。
- あの日のこと、忘れないで、毎日毎日、友達と会うのが楽しみです。カリタスさんありがとう。
- 感謝、一歩ずつ、一歩ずつ前に進んでいきましょう。これからも和気藹々と過ごせたらいいですね。
- 8 年前、ニチロで働いていました。皆で日和山に逃げました。寒くて、寒くて……。友達、ニチロで一緒に働いていた人が亡くなりました。心が痛みます。悲しいです。



聖体拝領後には、聖ペトロ大聖堂付聖歌隊による「花は咲く」の合唱が日本語で歌われましたが、参加者はその祈りに満ちた歌声に耳を傾けていました。

ミサの後には、2015 年に仙台教区サポートセンターが作成した復興支援活動紹介 DVD 約 50 枚を参加者に配布しました。

ローマには日本で働かれたことのある大勢の修道者、司祭がいますが、その中の多くの方々が東日本大震災関係の活動に関わっておられたことに驚かされます。多くの方が東北を思い、今もどこかで心を揺り動かされ、祈り続けておられます。仙台教区の一員として活動に関わった人間として、なんと有り難いことだ、と心の底から思いました。ただただ感謝です。



## 東日本大震災 8 年目、石巻ベース追悼の日

カリタス石巻ベース Sr. 山下正子

3 月 11 日、東日本大震災から丸 8 年を迎え、日本国中で、追悼復興の行事が行われましたが、特に被害のひどかった東北各地で、鎮魂と復興をねがう催しが開催されました。カリタス石巻ベースでも、あの日の出来事を思い起こしながら追悼の一日を過ごしました。

昨年の 3.11 には、みんなで、粘土でお地蔵さんを作り、祈りの空間を設け、そこで祈りました。今年は、絵の上手な利用者さんに、聖母マリアの絵を描いていただきました。その絵を、掲示板の右上に貼り、空いているスペースに訪れる方のひと言メッセージ(今日の思い)を書いて貼っていただくことにしました。桜やチューリップ型に切った紙を準備し、掲示板の前に小さなテーブルを置き、真ん中に花をかざり、周りに五本のローソクとお香を用意し、午前中は通常のお茶っこをしました。

午後 1 時、あいにくの雨の中を利用者さんが次々と訪れてくださいました。ご自分の家のお墓や、他の祈念式典会場に行かれた方もあり、いつものように多くはありませんでしたが、スタッフ、ボランティアさんも含め、17 名あまりになりました。いらっしゃった方にメッセ